

非公式

ESU

LokProgrammer

スターターガイド (仮) v1.02

DCC 意見交換会

(編集 : kuma)

目次

1. はじめに

2. 準備編

2.1 用意するもの

2.2 LokProgrammer (ソフト) のインストール

2.3 LokProgrammer (ハード) と線路の接続

3. 実行編

3.1 車両を動かす

3.2 CV 値を変更する

3.3 サウンドデータを上書きする

4. 取扱店 (入手方法)

5. おわりに

1. はじめに

このガイドは、” ESU” の” Loksound V4.0” を楽しみたい。あるいは、買っては見ただものの使い方がよくわからない。という方々の一助になればと考えて作成いたしました。

ただし、あくまで非公式ガイドですので、内容に間違いがあるかも知れませんし、その間違いによって製品が故障する能性もあります。よって、安全には十分な配慮を行った上で、全て自己責任でお願いいたします。

2. 準備編

2.1 用意するもの

1. Windows PC (Windows XP, 7, 8, 8.1, 10)

LokProgrammer (ソフト) をインストールするために必要です。2018 年 4 月現在では macOS には非対応です。

LokProgrammer (ソフト) をインストールし LokProgrammer (ハード) と組み合わせることで、DCC 車両のコントロールはもちろん、CV 値の変更からサウンド編集、上書きまで行うことができます。コントローラーとしても使うのであれば、ノートパソコンが扱いやすく無難でしょう。

2. LokProgrammer (ハード機器/品番 53451・53452)

ESU 社が発売している接続機器です。Windows PC とレール、または Decoder Tester (今回は取り扱いません) を接続し、PC とデコーダーを接続します。2 種類あるのは欧米の電源アダプタの違いからで、53452 であれば日本の 100V コンセントにそのまま使用することが出来ます。

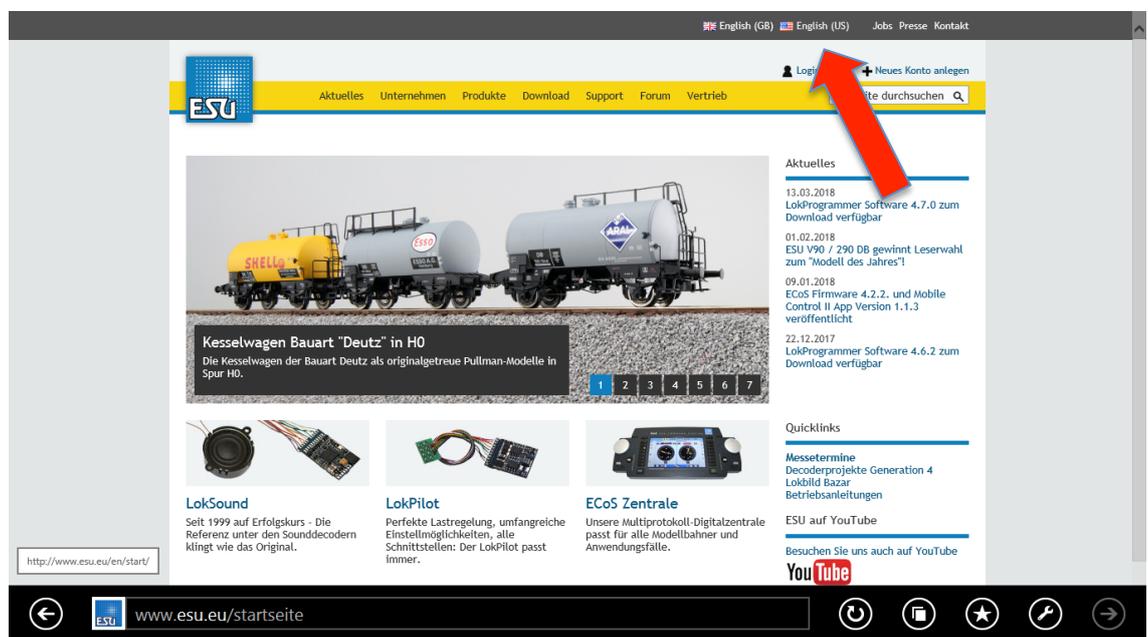
3. レール

貴方が所有している車両のゲージに合ったレールを用意します。コネクタの関係（理由は後述）から、可能であれば KATO のフィーダー線路 をおすすめします。

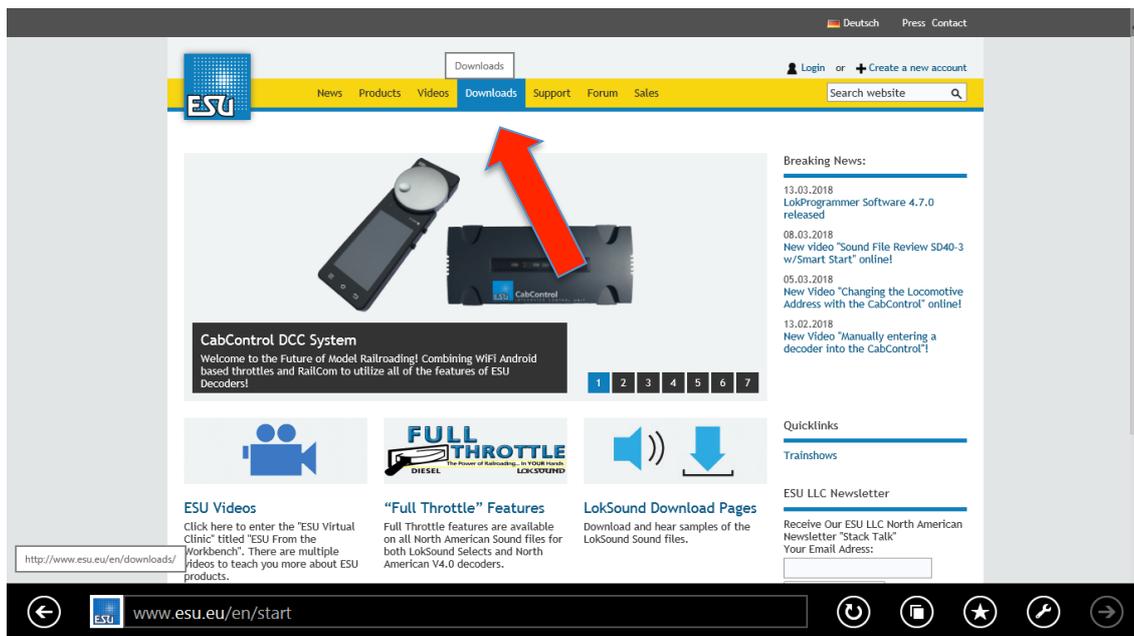
2.2 LokProgrammer (ソフト) をインストールする

LokProgrammer (ソフト) を Windows PC にインストールします。

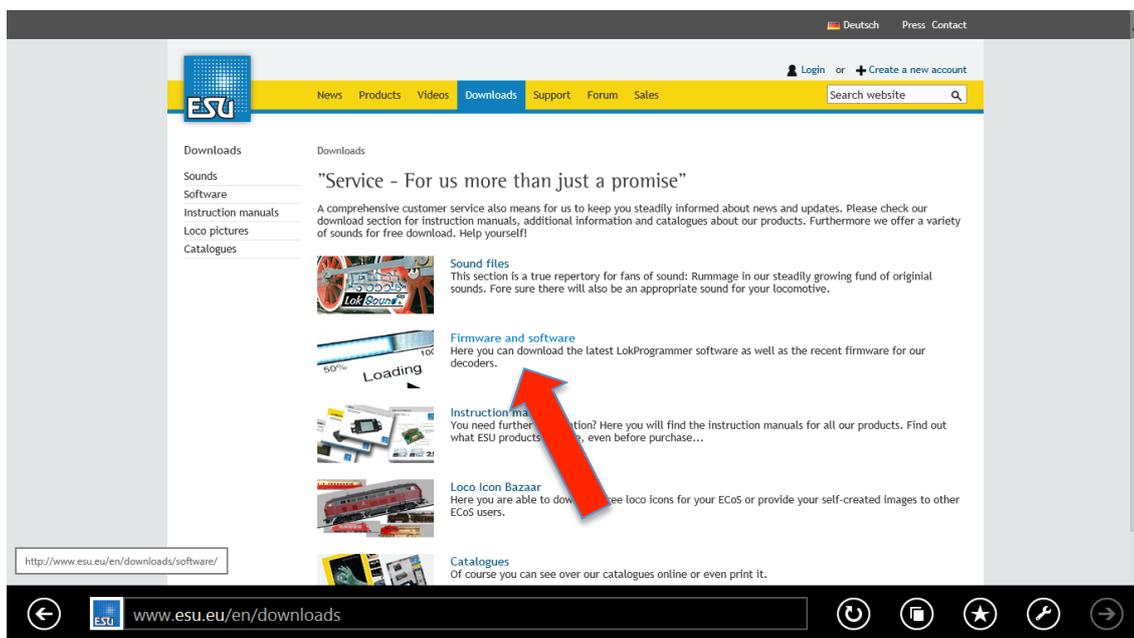
LokProgrammer (ハード) に付属の CD を用いても行うことができますが、ここでは ESU 社のホームページから最新版をダウンロードしてインストールします。



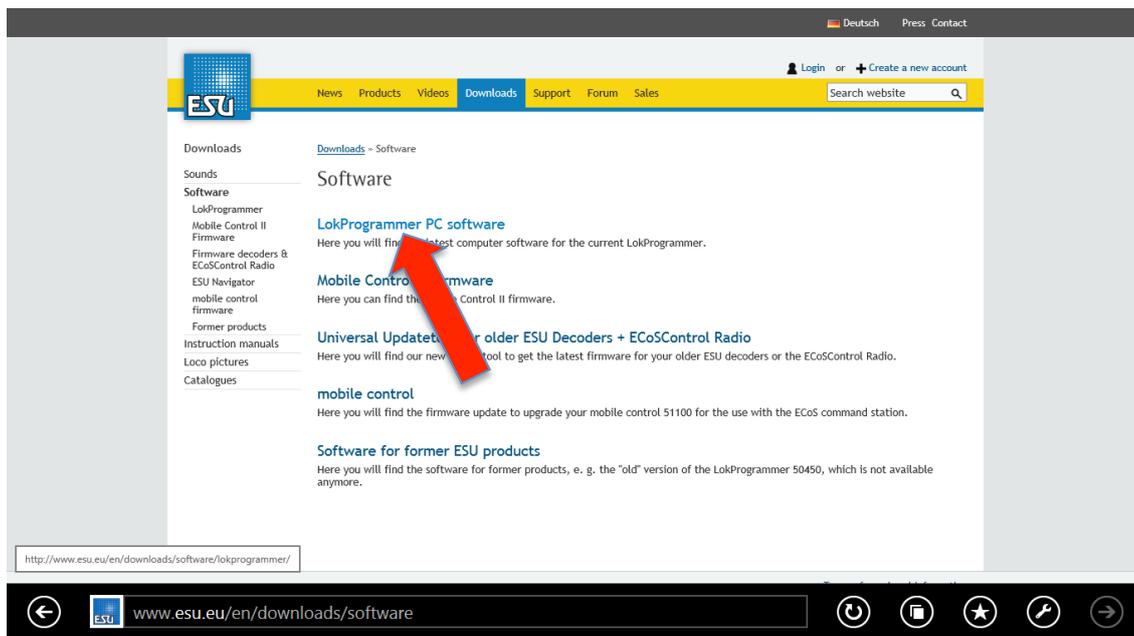
ESU のホームページを開きます。筆者はドイツ語が分からないので英語表記に切り替えます。



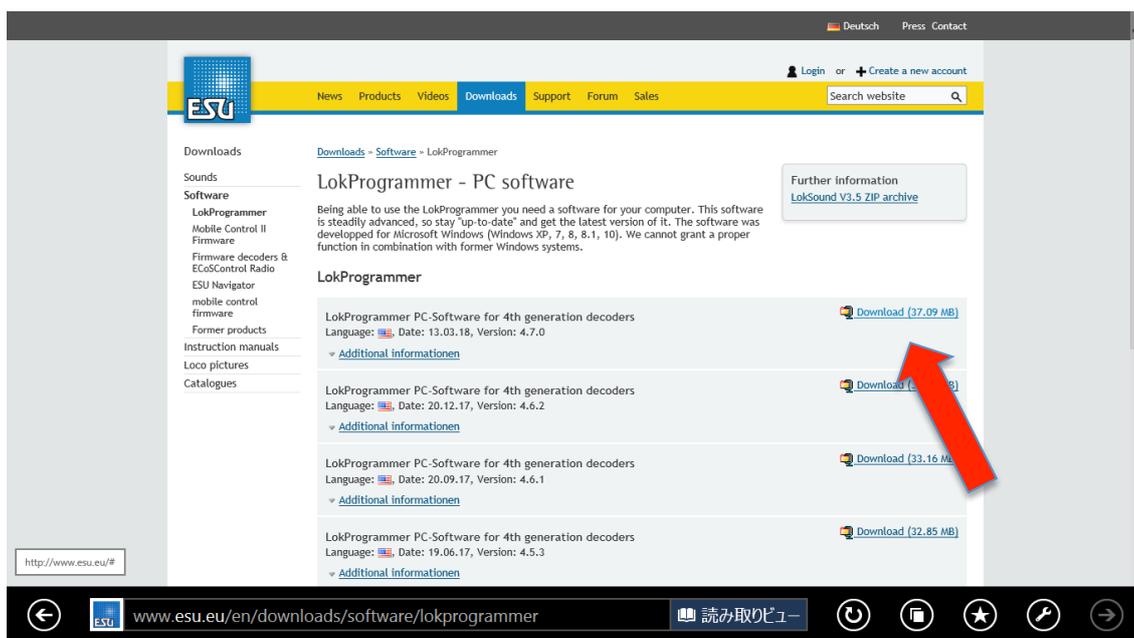
「Downloads」をクリック



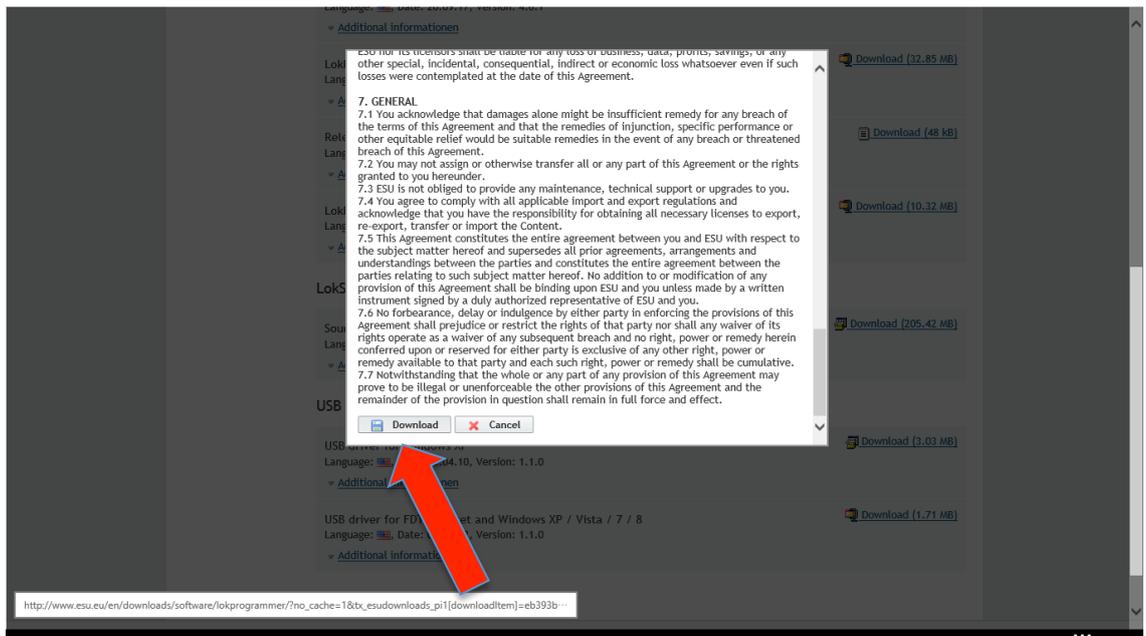
「Firmware and software」をクリック



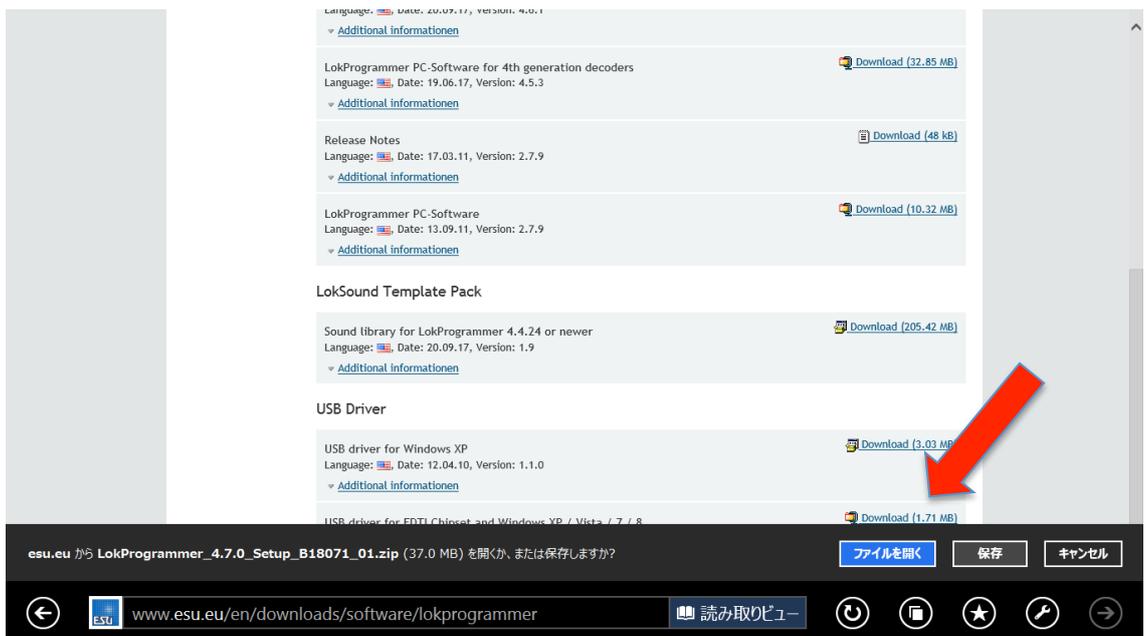
「LokProgrammer PC software」をクリック



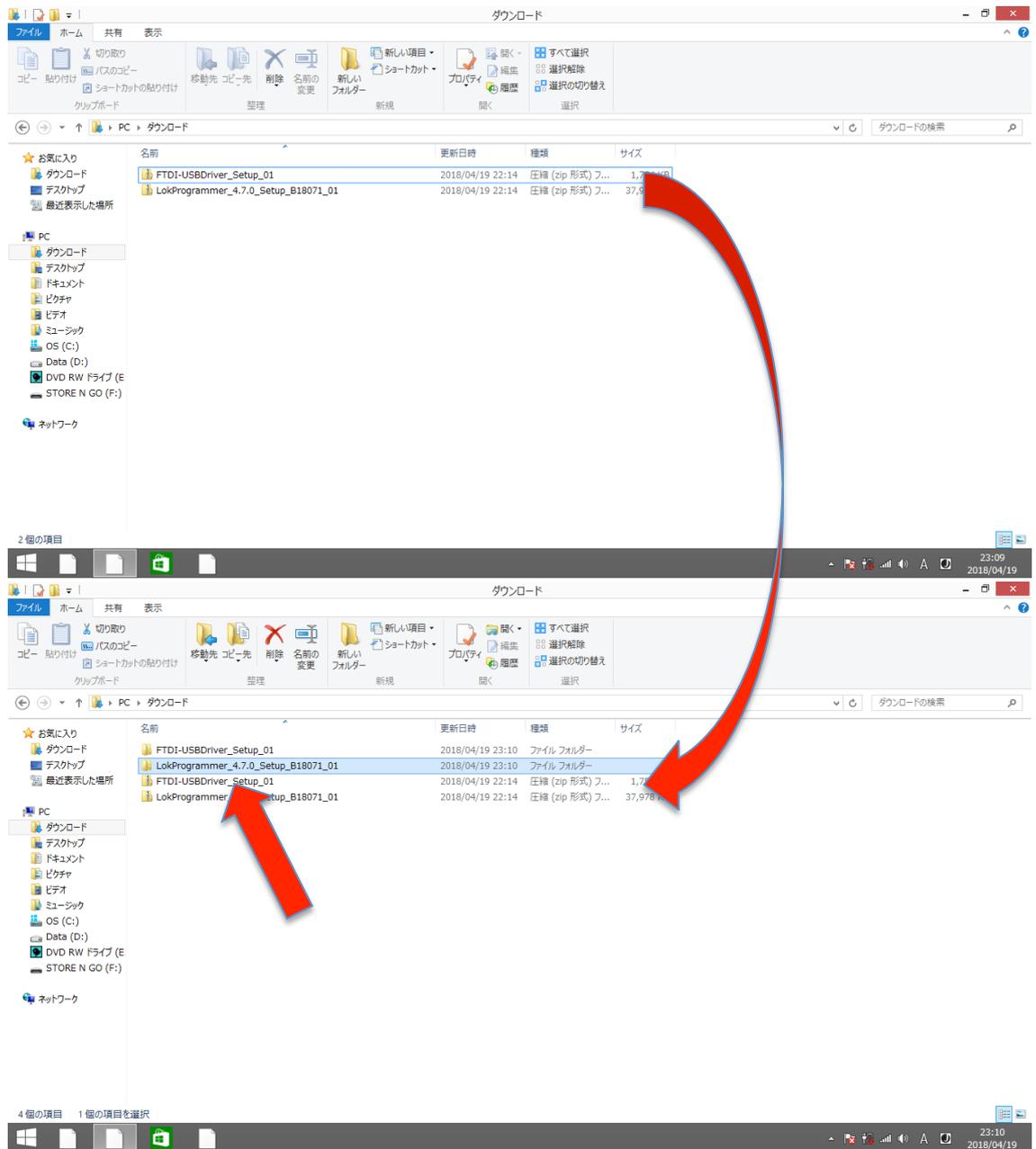
最新版をダウンロードします。



注意書きが表示されるので、一番下まで読み飛ばししっかり読んでダウンロードボタンをクリック

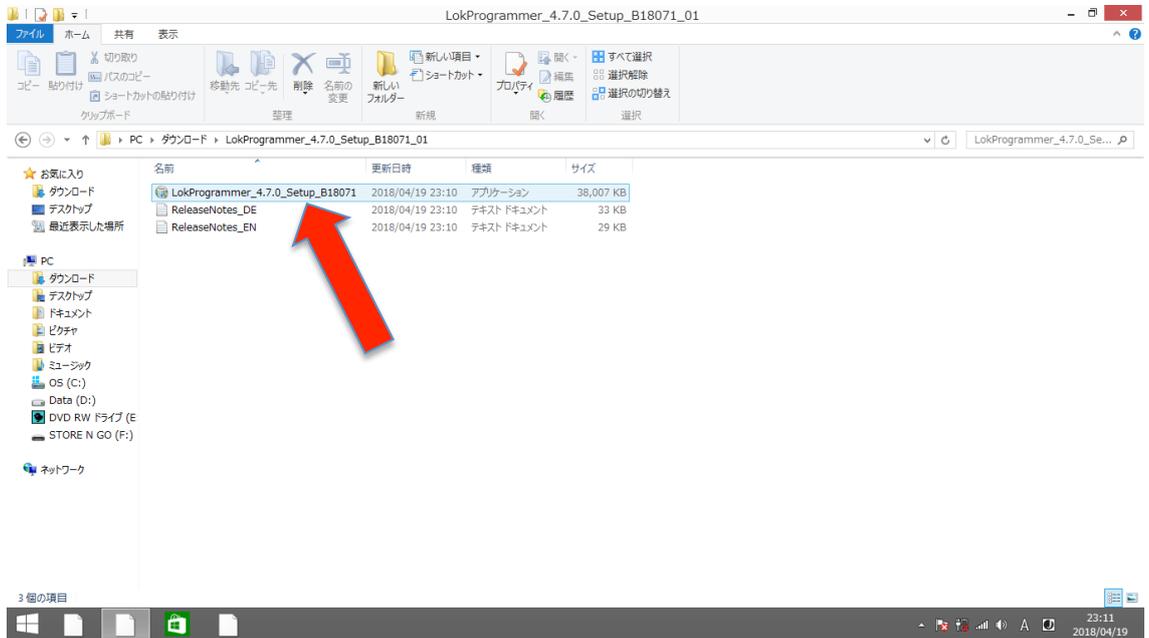


後ほど必要になるので、USB Driver も同時にダウンロードします。パソコンの OS が XP の場合は一つ上です。

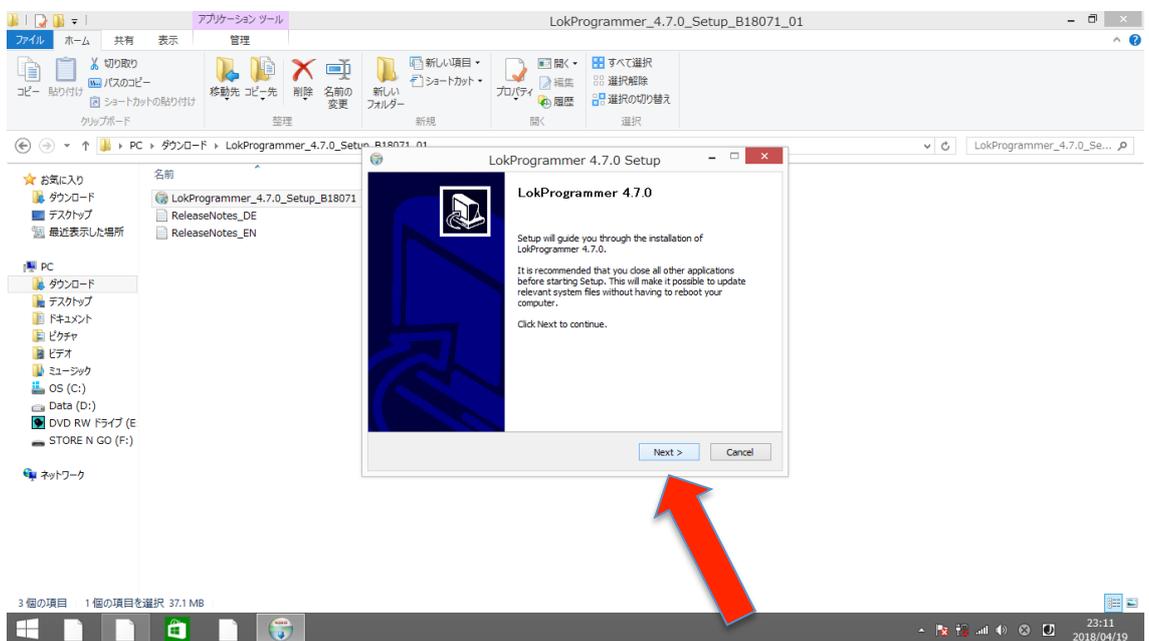


圧縮されているので解凍します。

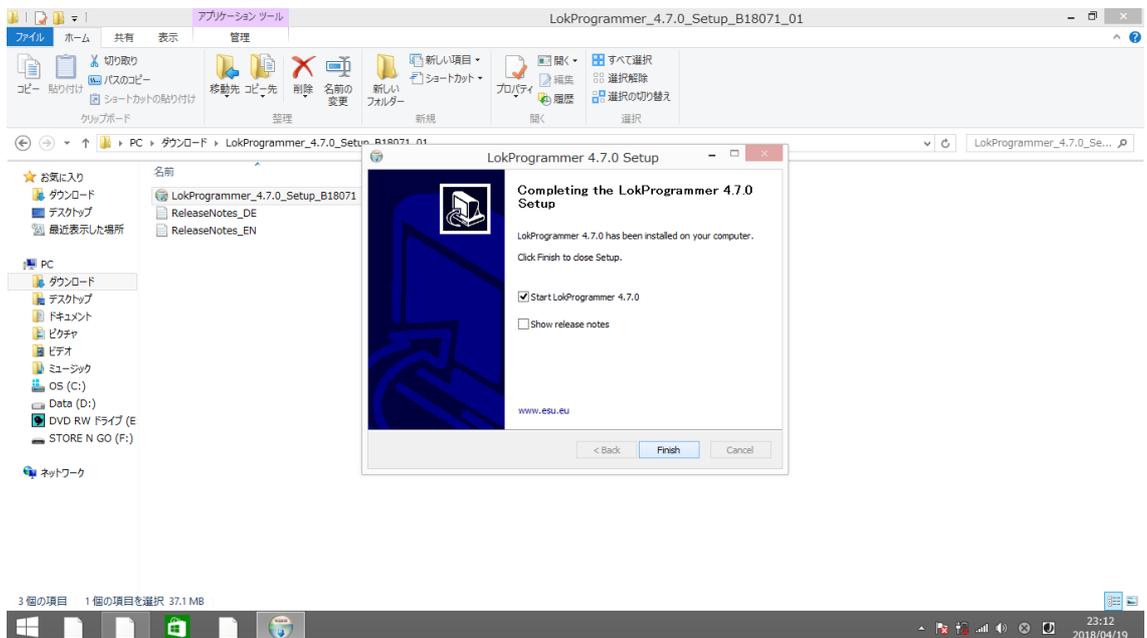
解凍できたら、セットアップのフォルダを開きます。



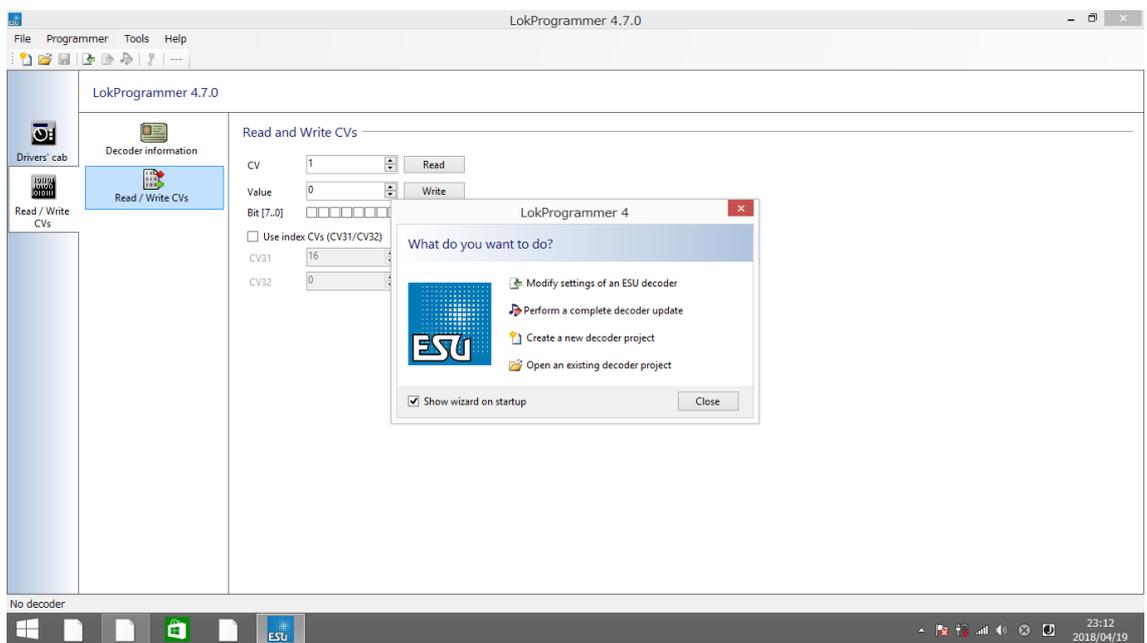
Setup アプリをダブルクリックしてインストーラーを起動します。



何も考えず表示内容をしっかり確認して「Next」をクリック



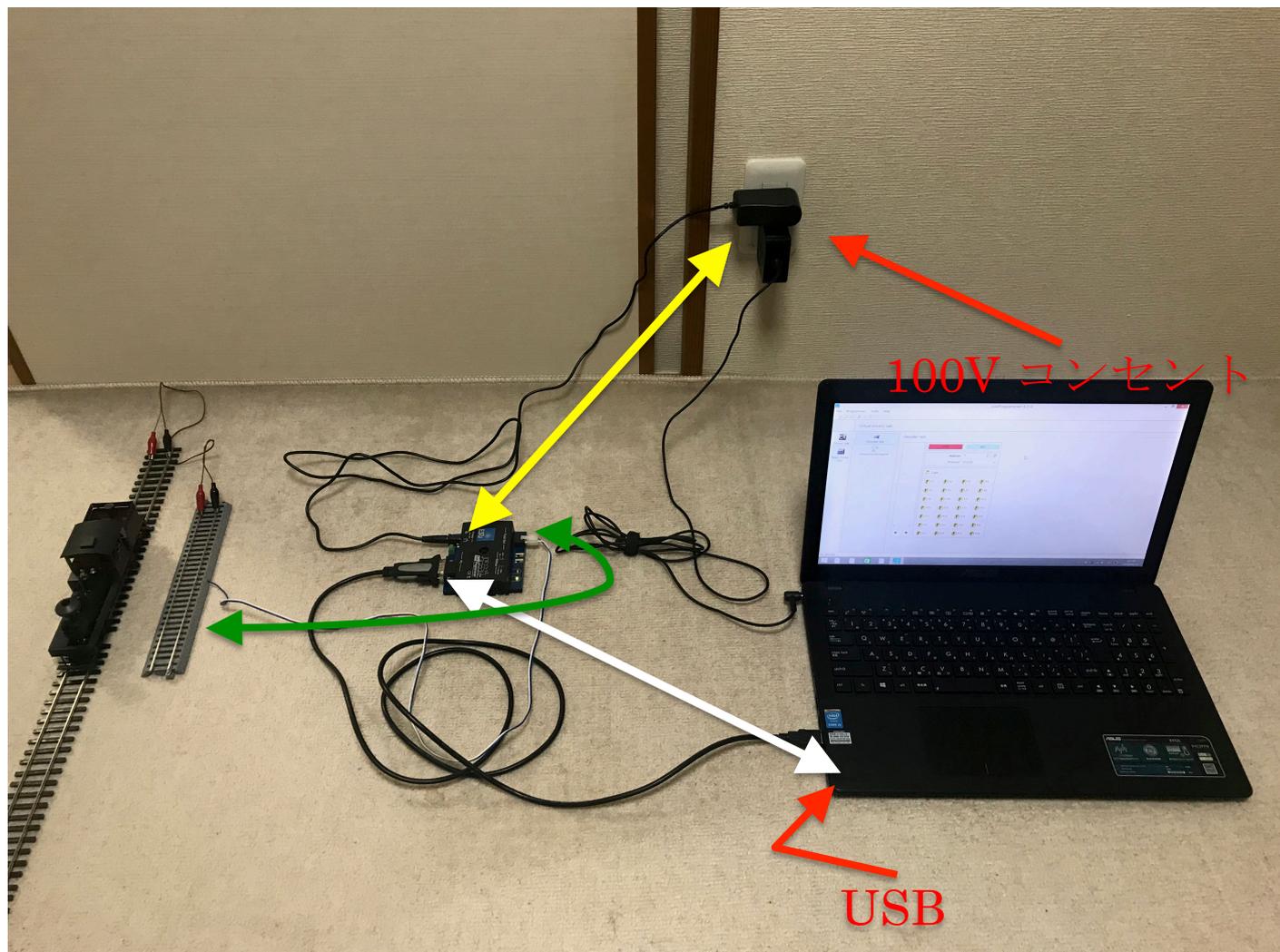
「Finish」が出ればセットアップは完了です。



無事にソフトが立ち上がればインストール完了です。

2.3 LokProgrammer (ハード) と線路を接続する

次は、LokProgrammer (ハード) とパソコンを接続します。



写真の通りです。

「家庭用コンセント～LokProgrammer」(黄色)

「LokProgrammer～Windows PC」(白)

「LokProgrammer～レール」(緑)

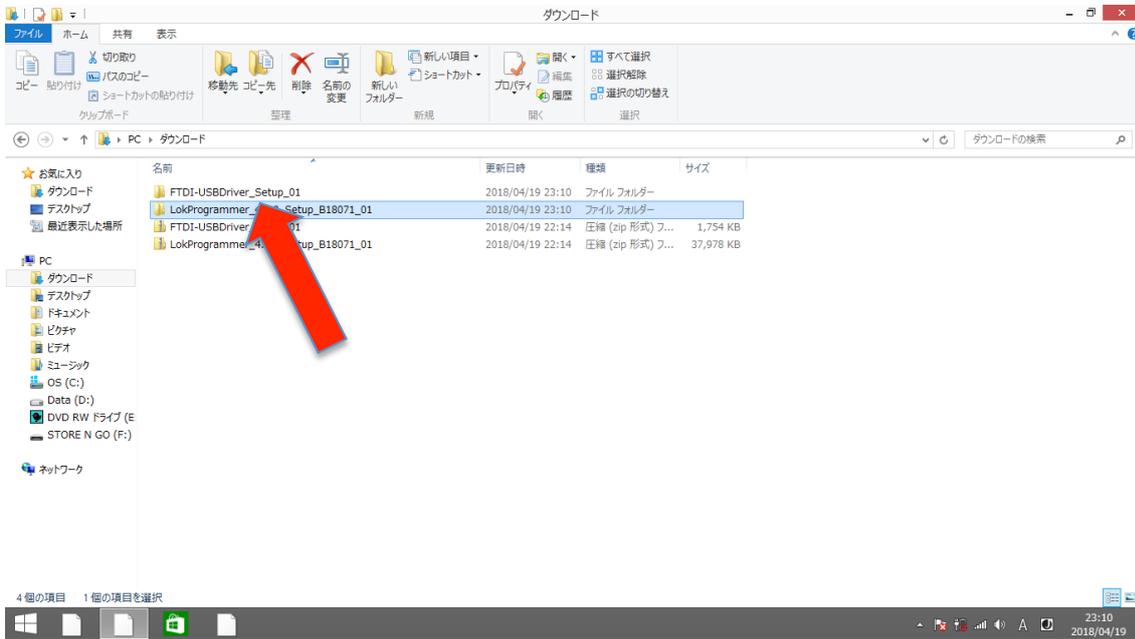
をそれぞれケーブルで接続します。ケーブルはパッケージに全て含まれますが、LokProgrammer(ハード)がヨーロッパ向け (品番 53451) の場合は、電源ケーブルないしは海外用電源変換プラグ (ヨーロッパ圏用) が必要となります。

し

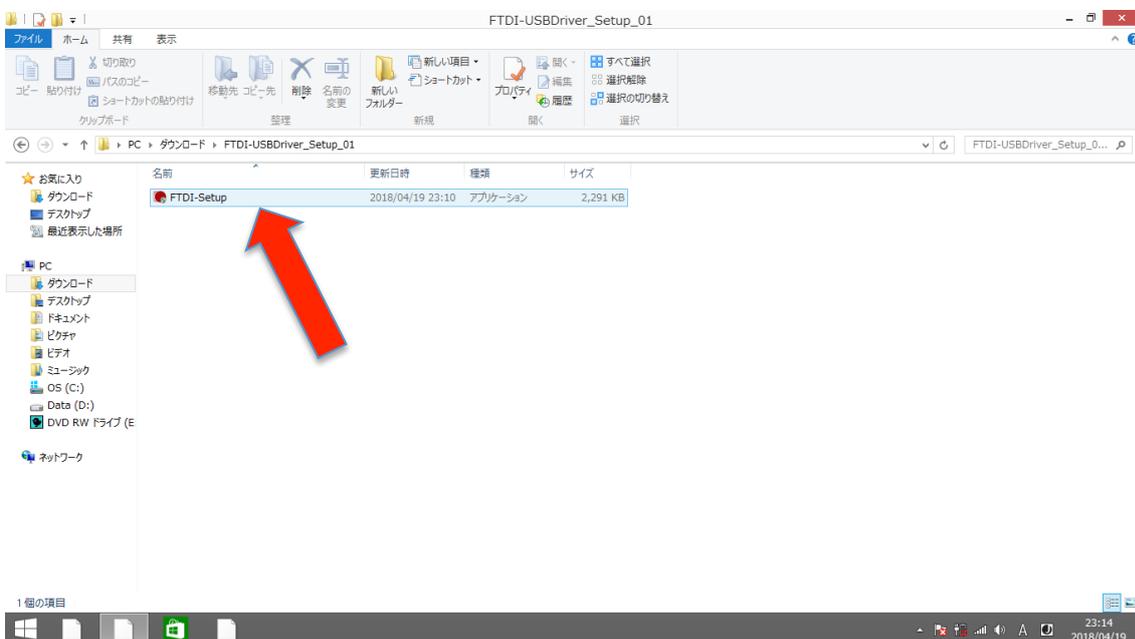


ヒント：製品には、リード線を取り付けるための端子プラグが付属

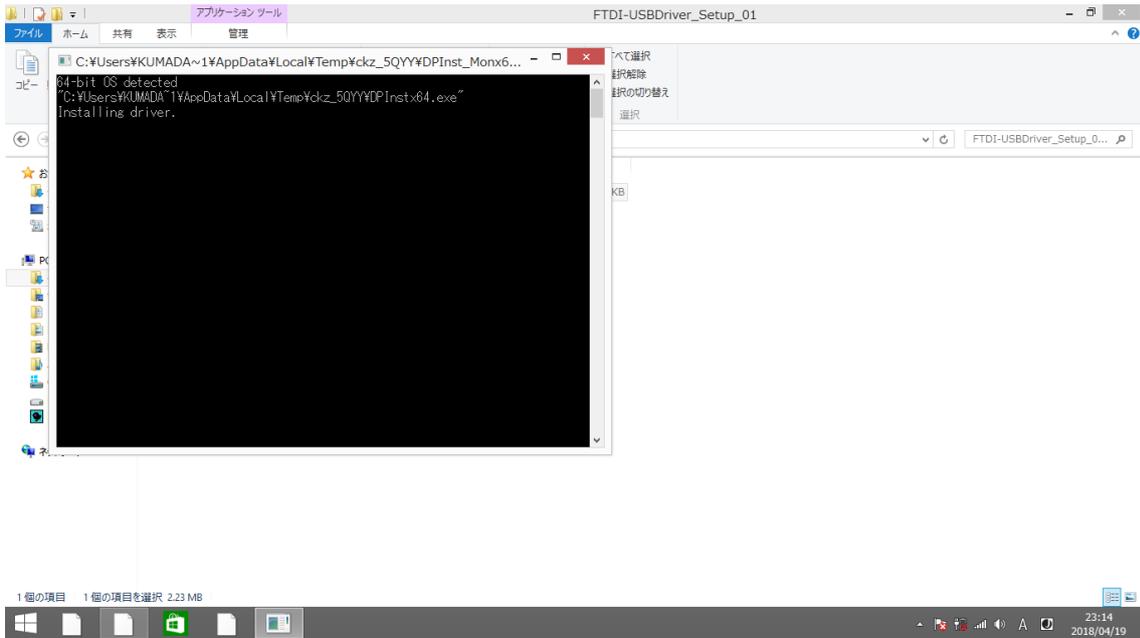
ていますが、KATOのフィーダー線路のコネクタを無理やり接続することが出来ます。今のところ実用上で問題が発生した例は耳にしていますが、もちろん補償対象外でしょうからあくまでも自己責任で！



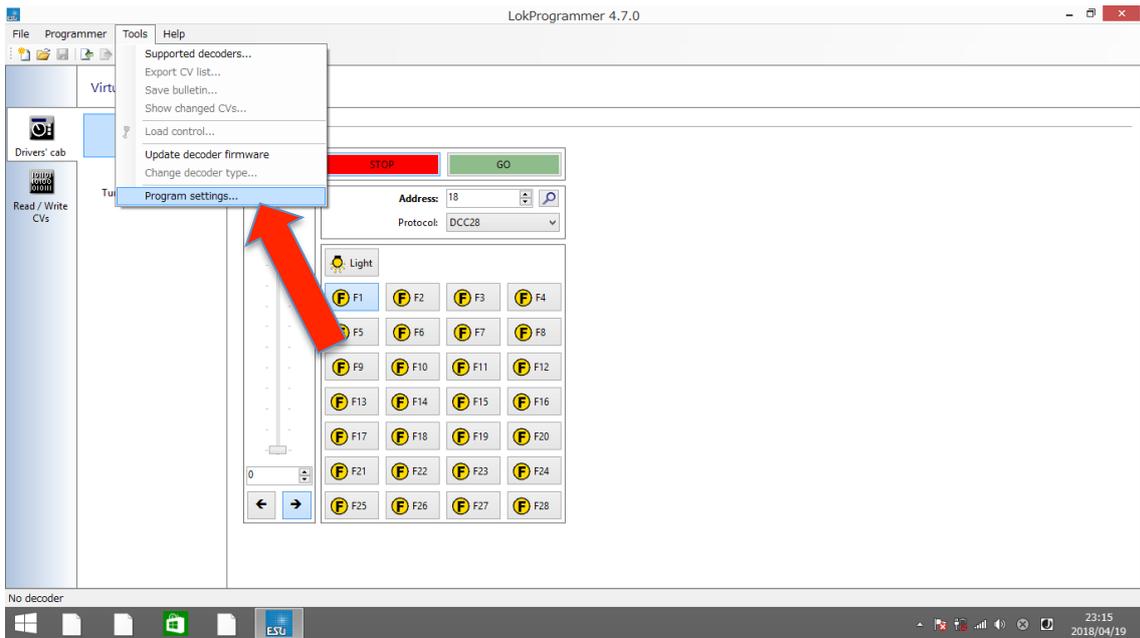
パソコンと LokProgrammer（ハード）が接続出来たら、USB ドライバーをインストールします。ファイルは先ほど解凍しましたね。



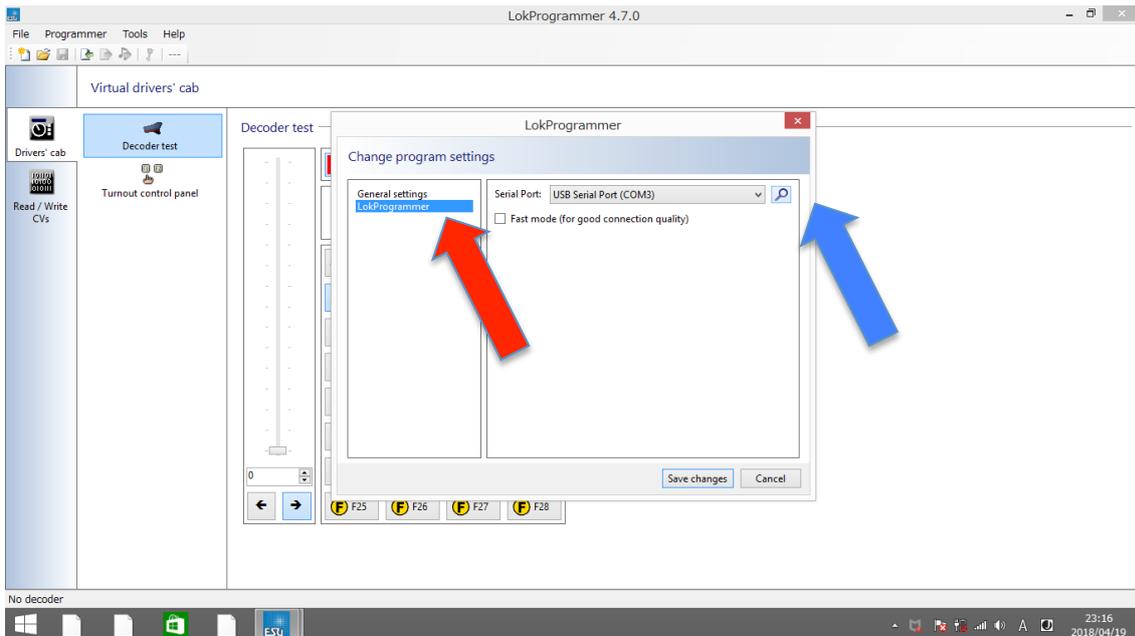
インストーラーを起動



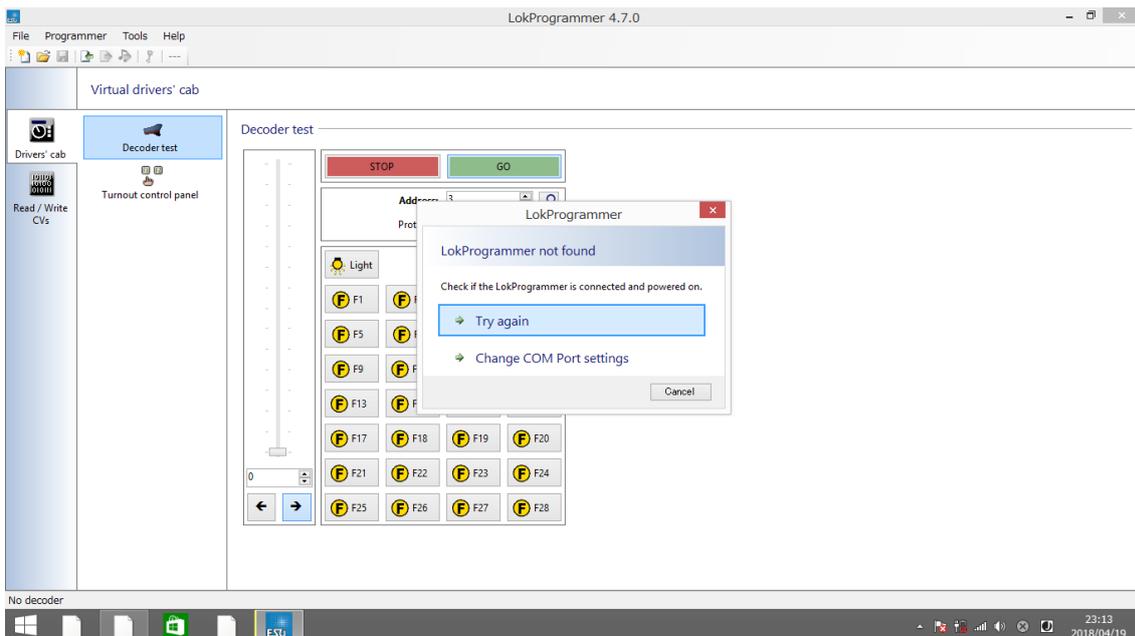
こんな画面が出てきて、勝手に消えます。



LokProgrammer を起動して、ドライバーの指定を行います。
「Tools→Program settings」をクリック



LokProgrammer をクリック (赤矢印)
 虫眼鏡マークをクリックして検索し、√をクリック
 表示された USB ポートを選択します (青矢印)

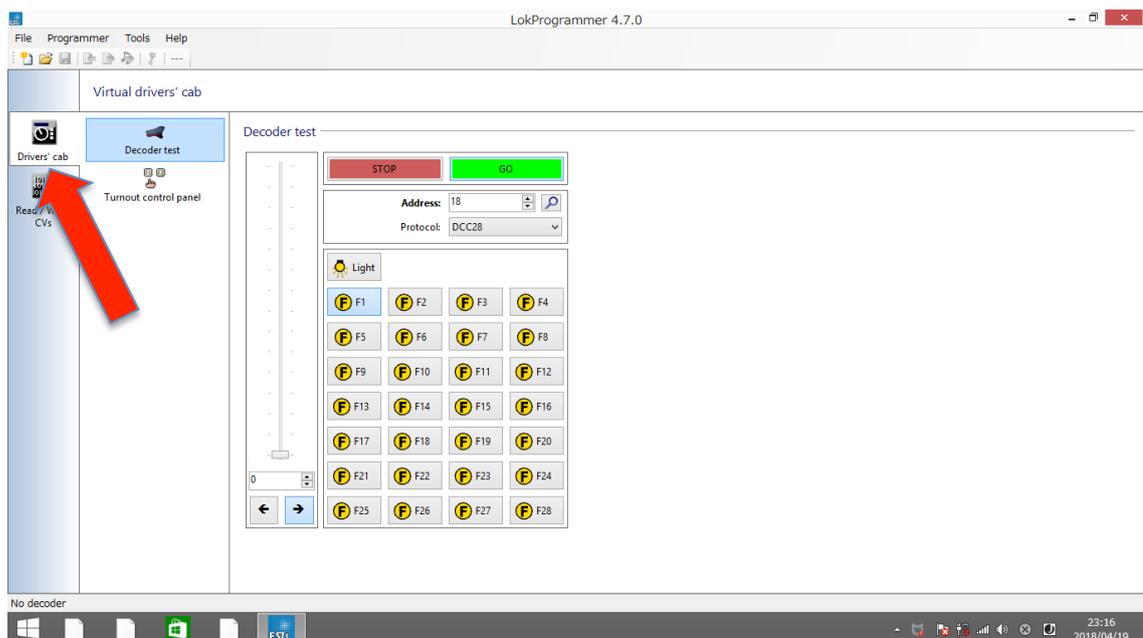


LokProgrammer の Drivers' cab 画面で **GO** ボタンを押して、
 上の画面のような表示が出なければ OK です。確認できたら **STOP**
 で解放します。

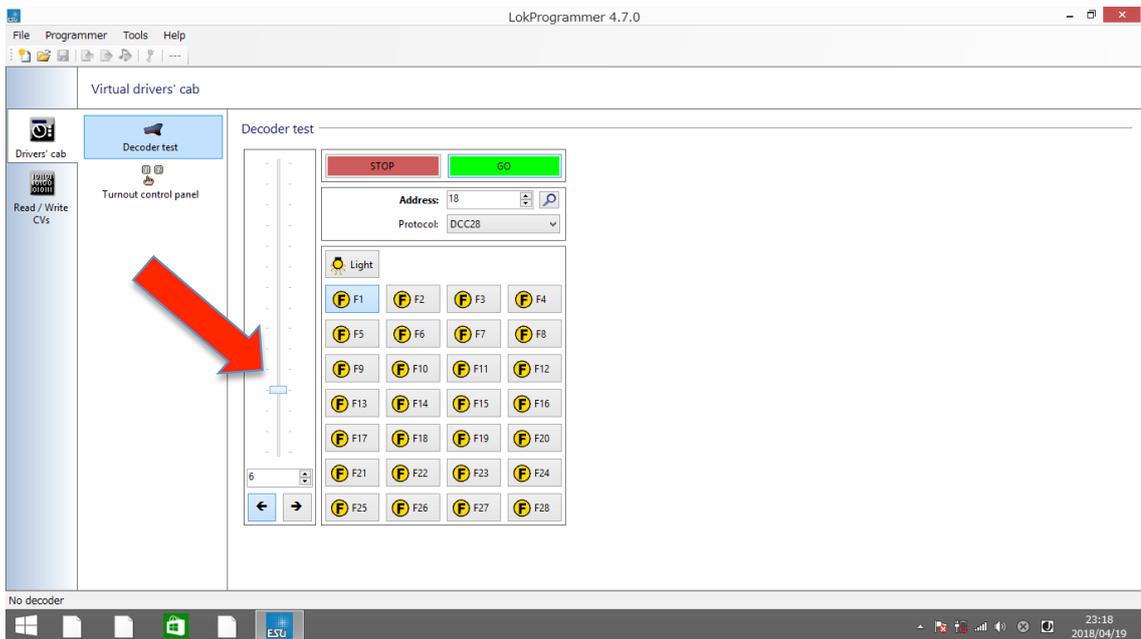
3. 実行編

3.1 車両を動かす

LokProgrammer（ハード+ソフト）にはDCCコントローラーとして使える機能も備わっています。本来はテスト用ですが、個人で楽しむ分には十分に実用的です。この機能を利用して、DCC車両を走らせて見ましょう。



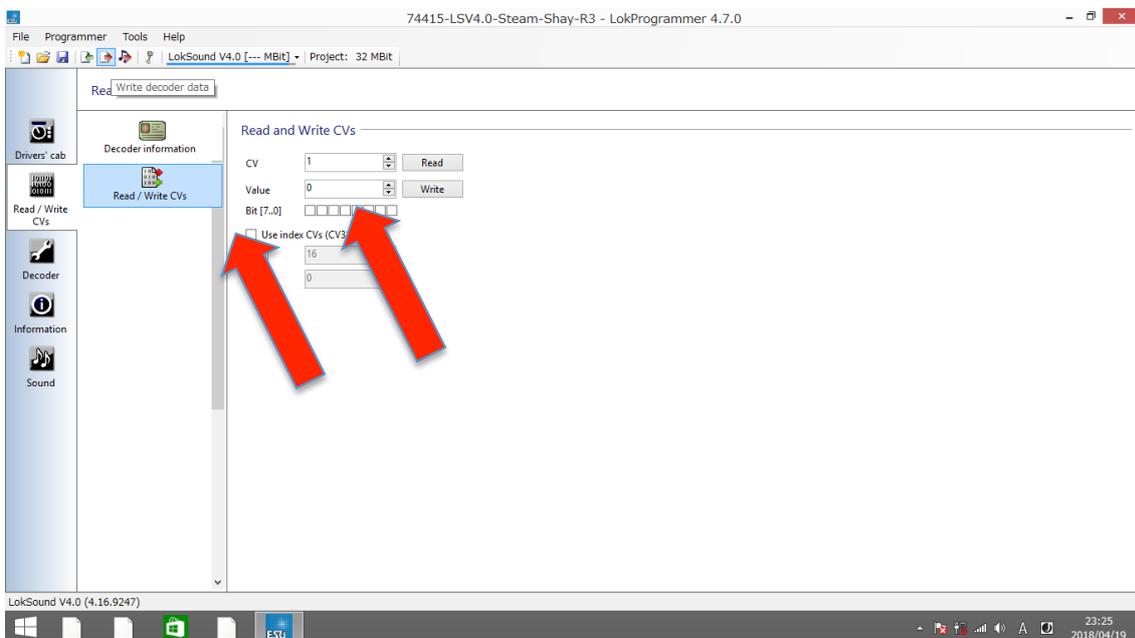
Drivers' cab をクリック。「Decoder test」画面で任意の Address 番号を選択し、GO ボタンを押せば呼び出すことが出来るはずです。



矢印で示したバーが「速度」、その下の矢印が走る「方向」、「F1」などのボタンを押せばそのファンクションに割り当てられた動作をするはずです。

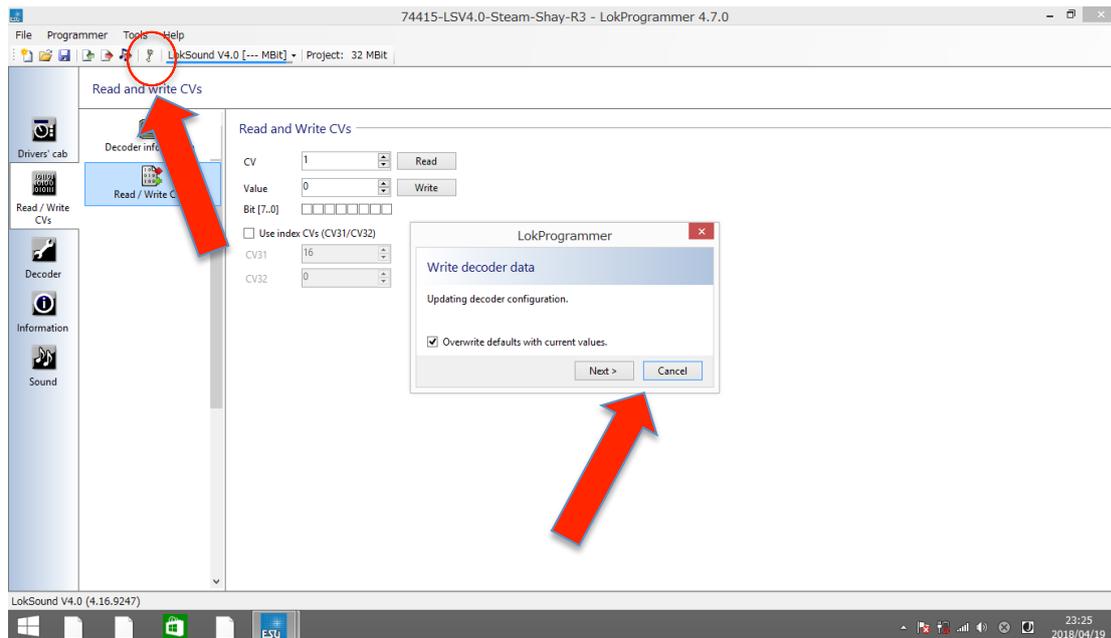
3.2 CV 値を変更する

当然ですが、LokProgrammer（ハード+ソフト）で CV 値の読み出しや変更も行うことができます。



Drivers' cab の一つ下「Read/Wirte CVs」を選択します。読み出したい CV の数字を選び を押せば Value（設定されている値）を読み出すことができます。変更したい時は、Value

の数字を設定したい数値に変更して **Write** ボタンを押せば変更できます。

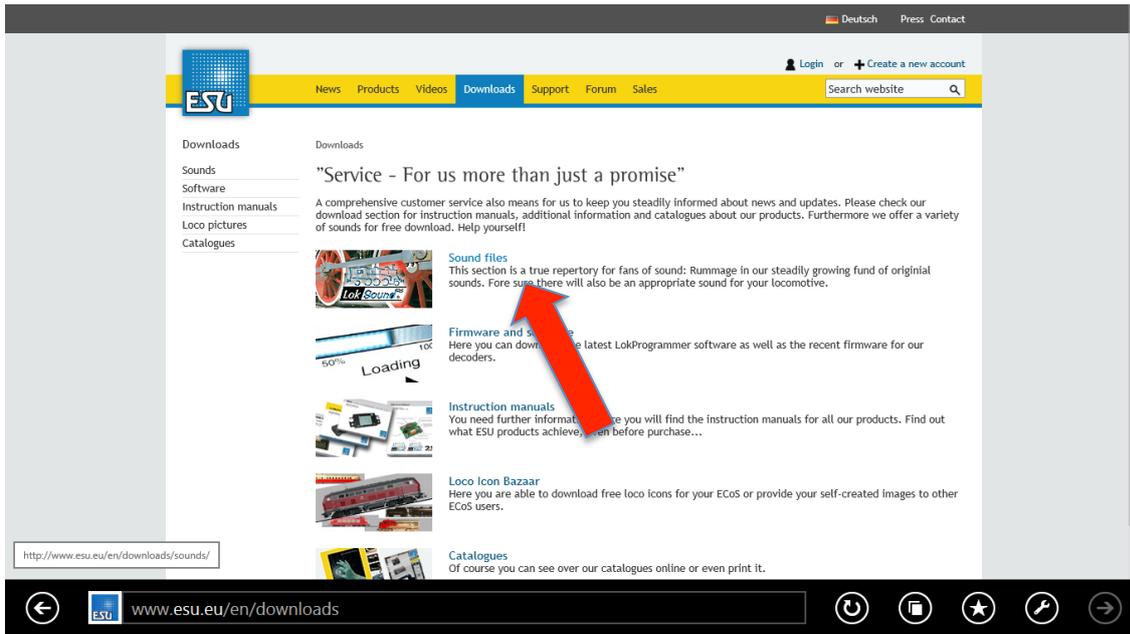


もう一つの機能として、CV 値も含めたデコーダーの設定をまるごと変更を行うこともできます。このガイドでは触れませんが、その場合は赤い矢印のボタン (Write Decoder data) をクリックすると、画面のような確認ウィンドウが現れ「Next」を押せば書きこむことができます。

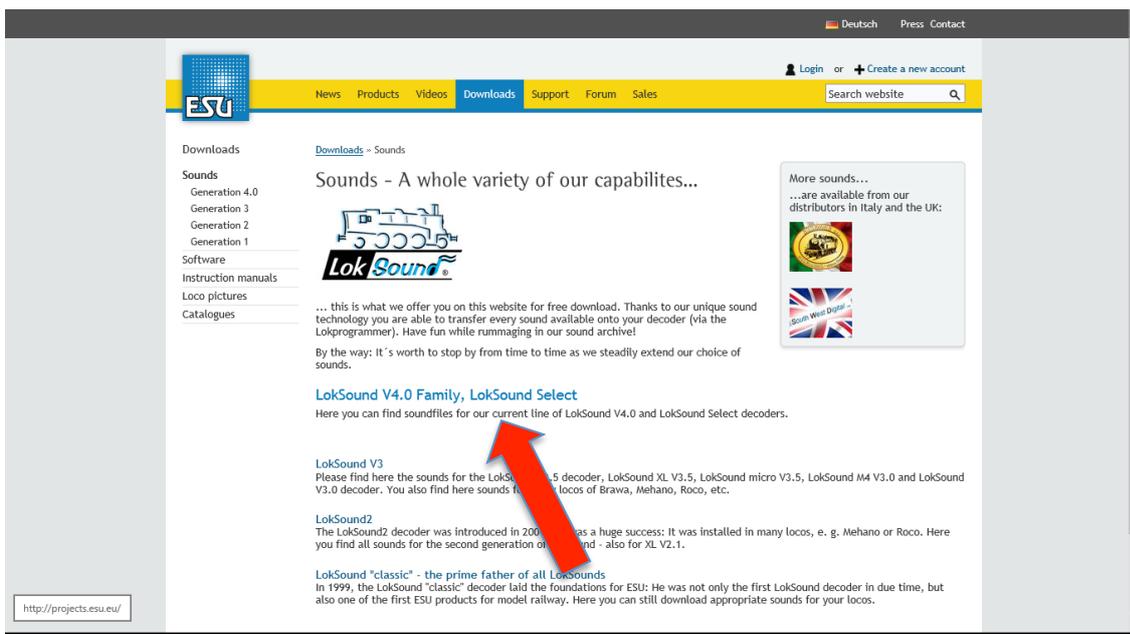
3.3 サウンドデータを上書きする

ESU の Loksound では、サウンドデータを好きな音に「上書き」することが出来ます。何度でも変更できますが、元となるサウンドデータが無ければ復元できない点には注意が必要です。

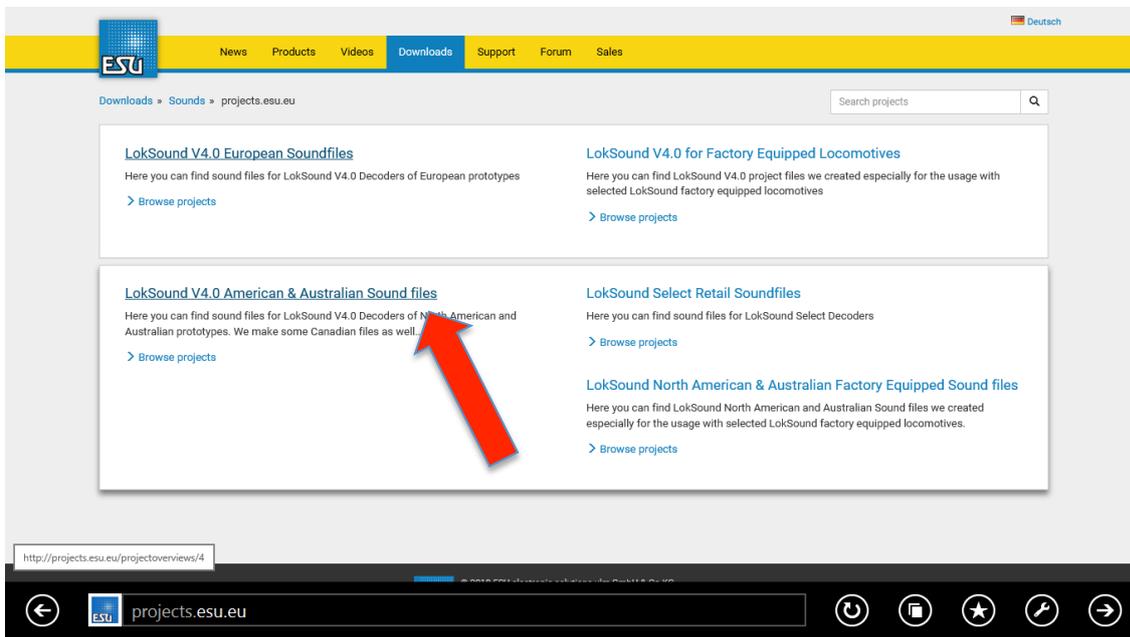
ただし、何度でも上書きは可能ですので“あとから汽笛の音だけ変更する”という事もできます。“デコーダーを蒸気機関車から電車に積み替えたい”という時も困りません。



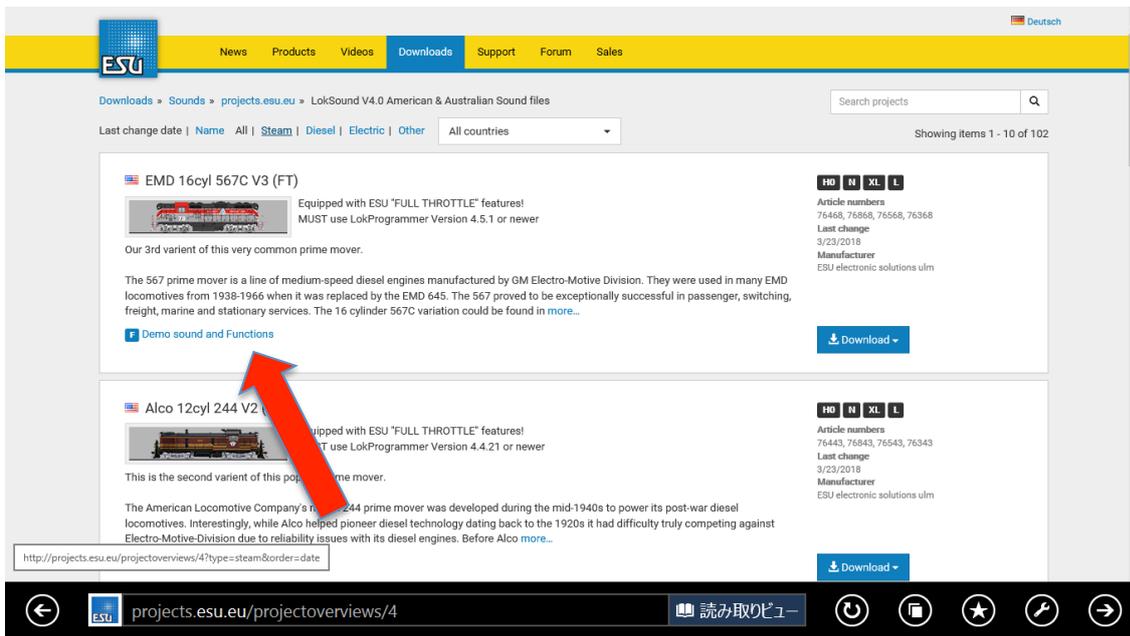
まずは上書きしたいサウンドデータを手に入れましょう。ESU のホームページの「Downloads」から「Sound files」をクリック



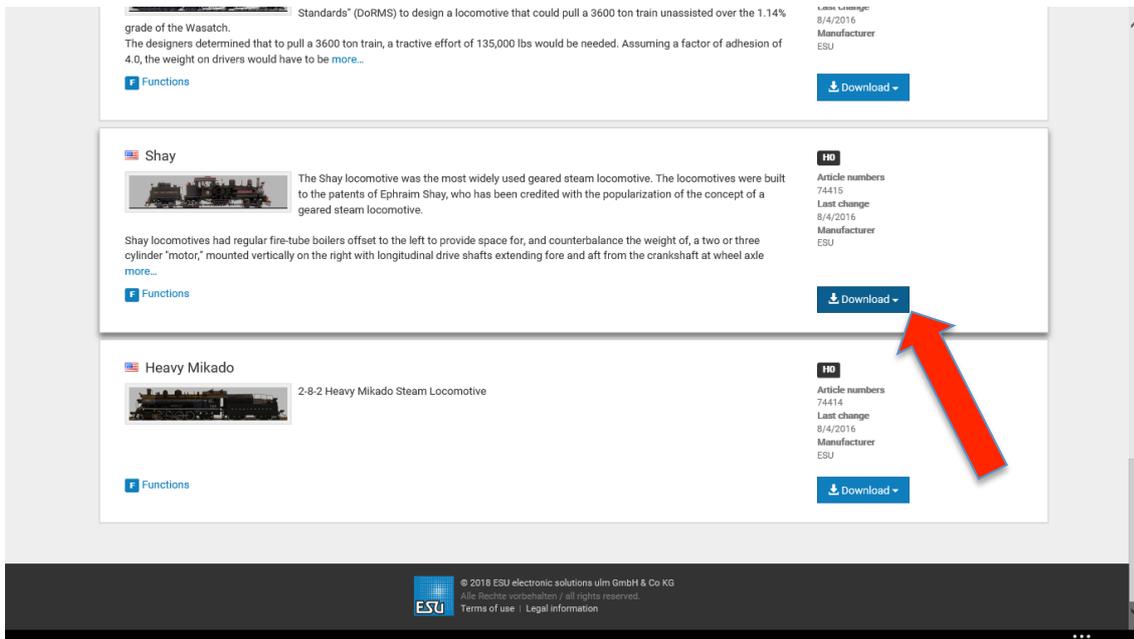
Loksound のバージョンを選択します。現在流通している製品は V4.0 ですので、V4.0 を選択。



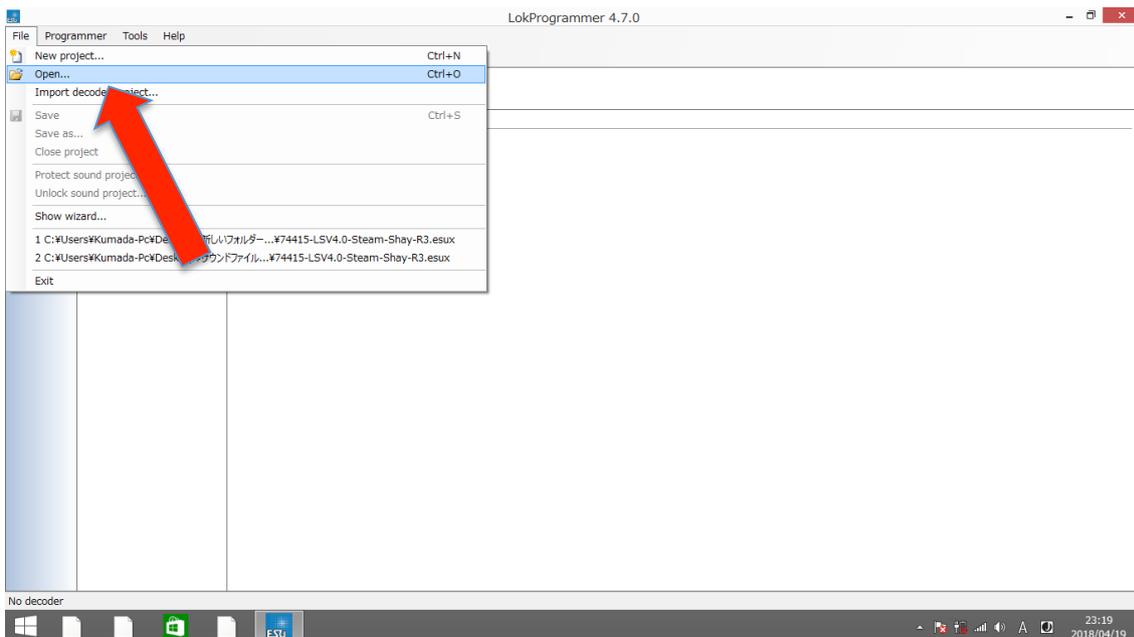
上書きしたいサウンドの車両を探します。ヨーロッパ型とアメリカ&オーストラリア型に大別され、残念ながら日本型はありません。今回は筆者の趣味でシェイの音源を探して見ます。シェイはアメリカの機関車なので「**American & Australian**」を選択。



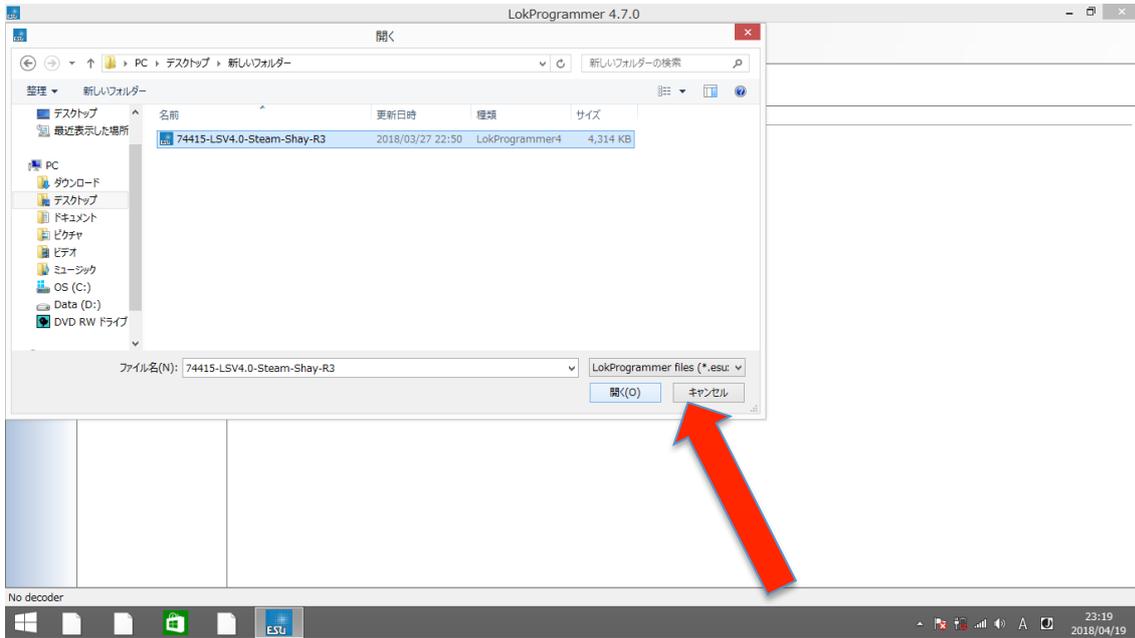
サウンドデータの一覧です。この画面では、サウンドデータのダウンロードのほか、サウンドのサンプルを聴くことも出来ますので、好みの音を探す時はこのページを漁ることになります。サンプルを聴く時は「**Demo sound and Function**」をクリックし、プルダウンで表示される再生バーの操作で聴くことが出来ます。



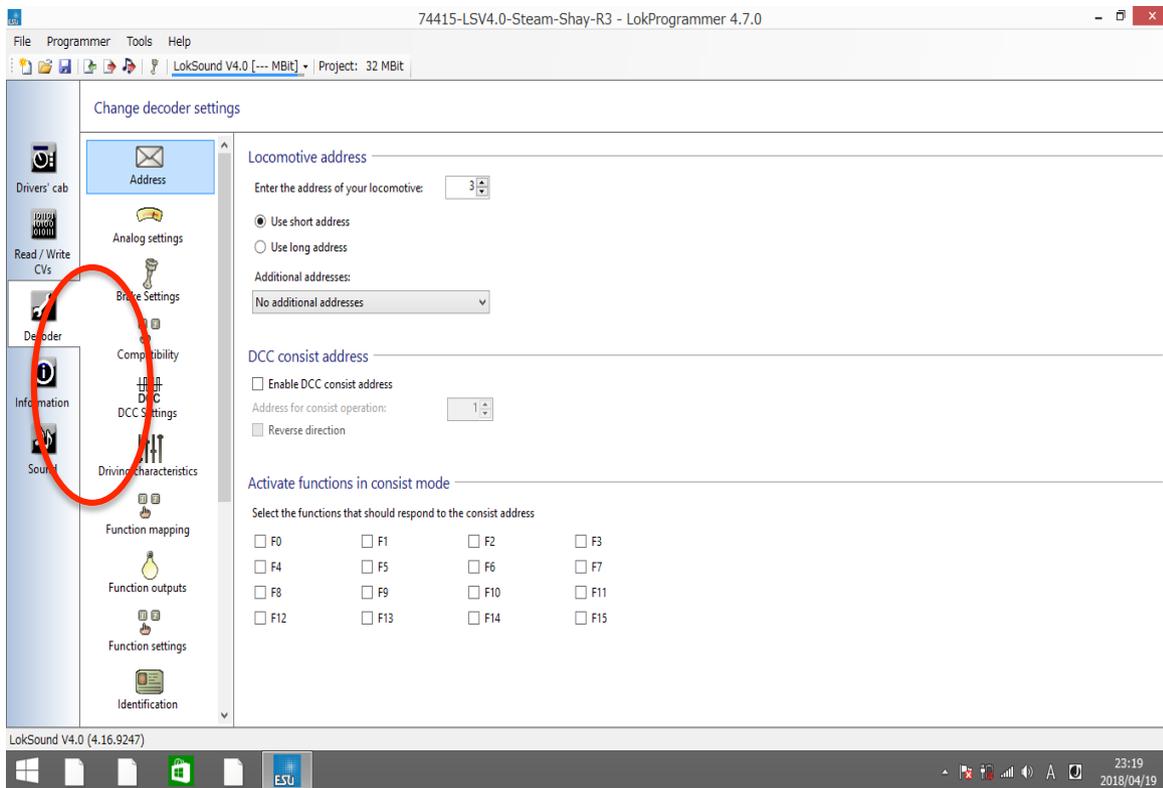
シェイが見つかりました。「Download」をクリックするとプルダウンでデコーダーの種類が表示されるので、書き込みたいデコーダーと同じものを選択します。品番で確認の際は、下2桁は無視し上3桁で判断します。LokProgrammerの時と同じく確認画面が表示されるので、読み飛ばしてしっかりと下まで読んで「Download」ボタンをクリック、任意の場所に保存します。



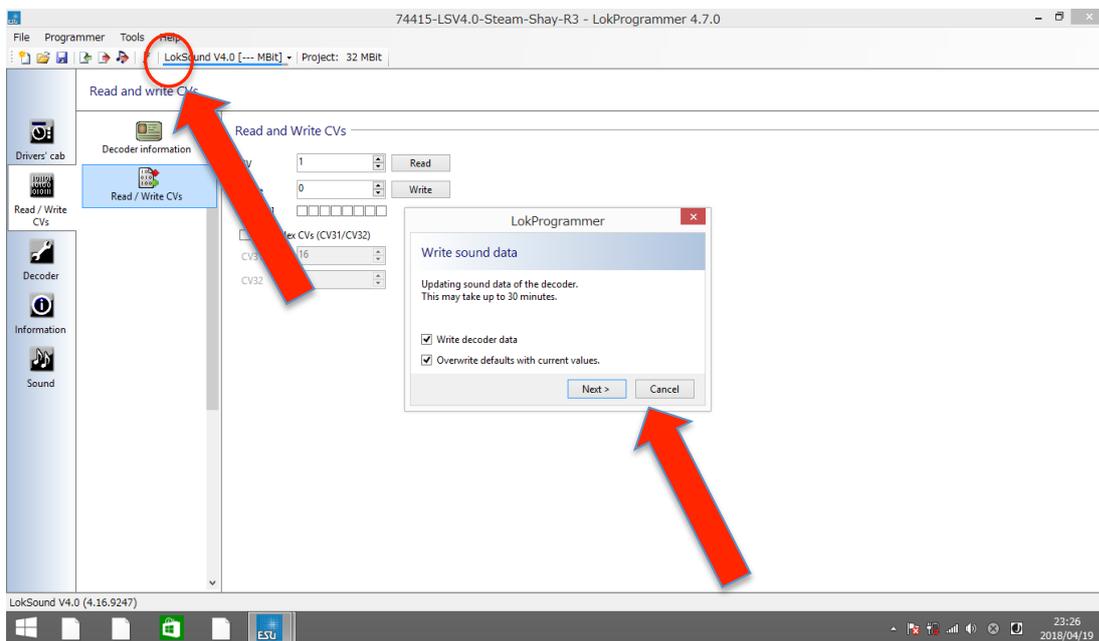
LokProgrammer を起動して、サウンドファイルを開きます。
「File → Open」 をクリック。



先ほど保存したファイルを選択し、**開く**をクリック。

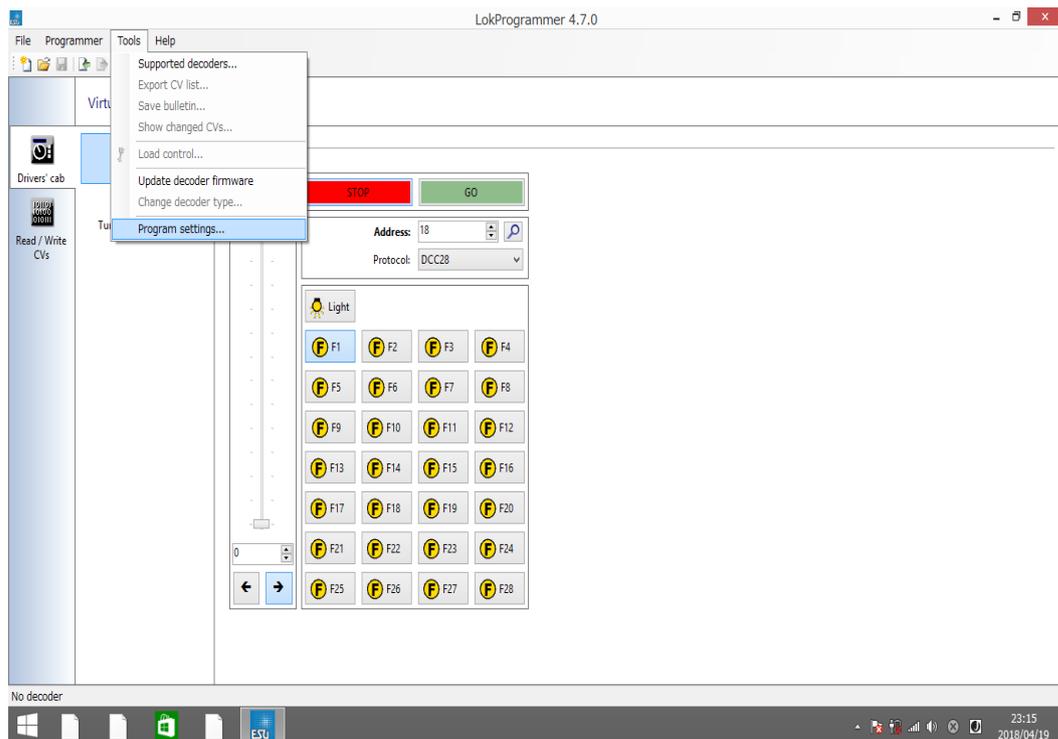


サウンドファイルを開くと「Decoder」「Information」「Sound」のタブが現れます。このタブの中身を利用すると、サウンドファイルの設定や、ファンクションの割り当て、CV値の一斉変更なども出来ますが、このガイドでは触れません。



いよいよ上書きです。上書きしたいデコーダーを積んだ車両を線路に乗せ、「♪→」ボタンを押して「Next」を押すだけです。

サウンドの上書きには約 30 分かかります。その間にデコーダーとの接続が切れると最悪の場合は故障につながりますので、**要注意**です。



もしもエラーが出て書き込めなかった場合は、デコーダーのファームウェアが最新でない可能性があります。その場合は「Tools→Update decoder firmware」でファームウェアのアップデートを行ってください。

4.取扱店（入手方法）

日本国内で、ESU に登録されている販売店は下記の通り。

クマタ貿易（株）	東京都中央区日本橋浜町 2-33-7
天賞堂	東京都中央区銀座 4-3-9
チムニー（有）ケントレーディング	東京都港区南青山 5-1-18 ポヌール青山 5C
メルクリンショップ・ラインゴルト東京	東京都荒川区西尾久 1 丁目 3 3-6 ラインゴールドアサヒ 1F
エルマートレイン	大阪府吹田市江坂町 1-21-39 土泰第一ビル 3F
HRS	大阪府枚方市招提中町 2 - 1 3 - 1 8
Modellbahn	兵庫県芦屋市大原町 11 番 24 ラポルテ北館 2F

そのほかの入手方として「海外の販売店から通販で購入する」「ドイツのアマゾンから購入」「ebay（セカイモン）」など、個人で輸入することも出来ます。参考までに、筆者はデコーダーは国内販売店から購入し、LokProgrammer（ハード）はセカイモンで購入しました。

5.おわりに

このガイドは、DCC 意見交換会代表うえだ ねじろう氏をはじめ、多くの方の助言無しには完成しませんでした。この場を借りてお礼申しあげます。

2018 年 4 月（編集：kuma）